平瀬川・多摩川合流部
整備事業に関する説明会

令和５年７月

川崎市建設緑政局　道路河川整備部　　河川課
南部都市基盤整備事務所
総務部　　企画課
高津区役所道路公園センター　　整備担当

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所　流域治水課

神奈川県　県土整備局　河川下水道部　河港課

事業説明会次第

①. 令和元年東日本台風の浸水被害対策の進捗

②. 平瀬川合流部の堤防整備の考え方

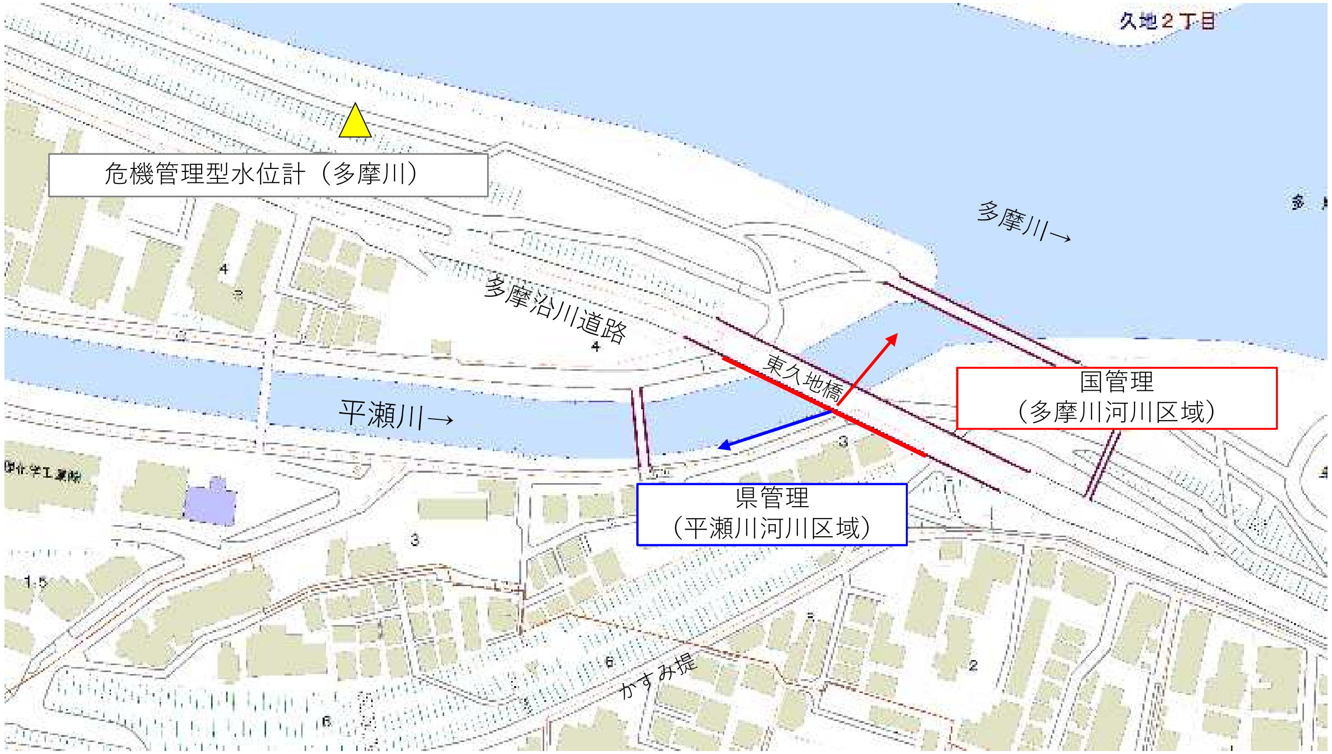
③. 多摩川右岸18.6k付近（平瀬川合流部）の堤防整備
〈①～③の質疑応答〉

④. その他（久地樋管の全閉化）
〈④の質疑応答〉

①.令和元年東日本台風の浸水被害対策の進捗

平瀬川(多摩川合流部周辺)の浸水状況

多摩川上流域で観測した既往最高の雨量は、計画高水位を超過したまま多摩川下流域を流下した。一方、平瀬川流域の雨量は流下能力を下回る降雨であったが、多摩川において田園調布(上)水位観測所等で計画高水位を越える状況の中、平瀬川においても水位が上昇し、管理用通路水抜き穴からの浸水、東久地橋桁下からの浸水、平瀬川の堤防からの越水が確認され、約6haの浸水被害が発生した。



①.令和元年東日本台風の浸水被害対策の進捗

短期・中期対策

フラップゲートの設置

・対策実施者：川崎市
・進捗状況　：令和2年3月完了

フラップゲート

大型土のう等の設置（多摩川の擁壁設置）

・対策実施者：国
・進捗状況　：令和3年8月末完了

擁壁の設置状況

パラペット護岸の改良

・対策実施者：川崎市
・進捗状況　：令和3年5月完了

護岸の改良状況

水位計、カメラの新設・更新

・対策実施者：川崎市
・進捗状況　：令和2年8月完了

カメラ画像（平瀬川-多摩川合流点）

被害最小化の取組

・対策実施者：川崎市
・進捗状況　：令和元年度完了

土のうステーション（かすみ提）

移動式ポンプ機

中長期対策

・対策実施者：川崎市
・進捗状況：平瀬川水門ポンプゲート化（令和5年8月運用開始予定）
　　　　　　久地樋管自動制御化（令和6年1月運用開始予定）

平瀬川水門の工事状況

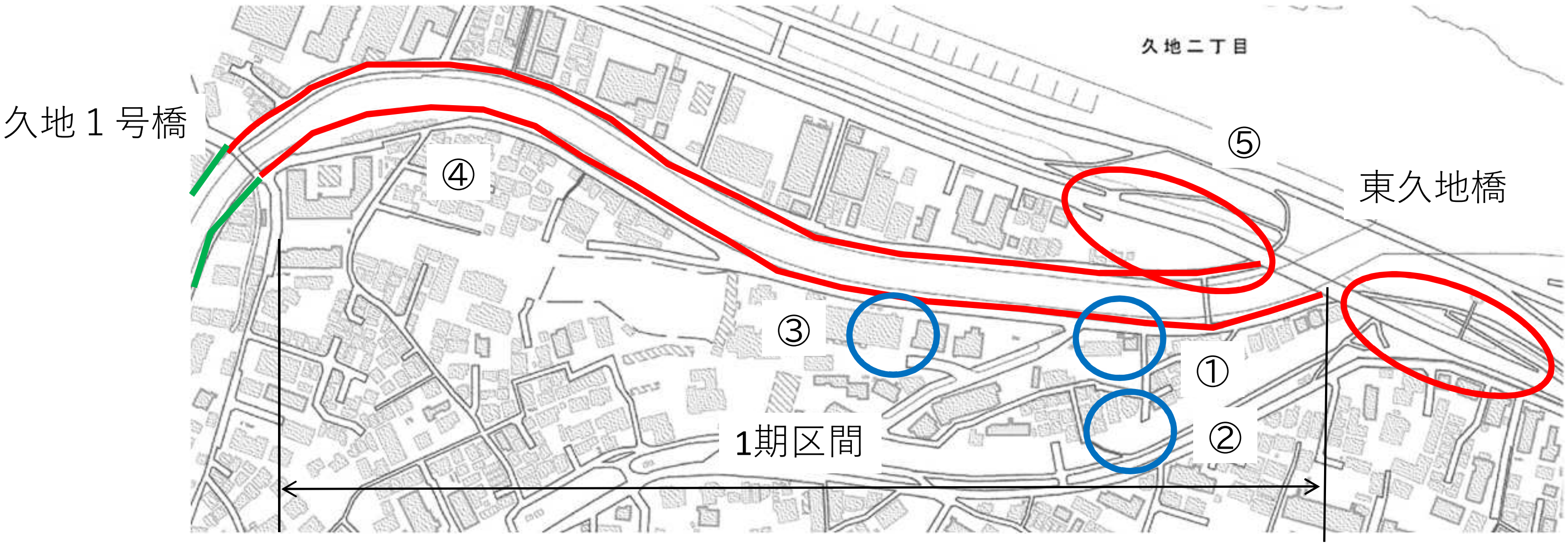
久地樋管の工事状況

①.令和元年東日本台風の浸水被害対策の進捗

中長期対策の実施状況

令和5年7月末

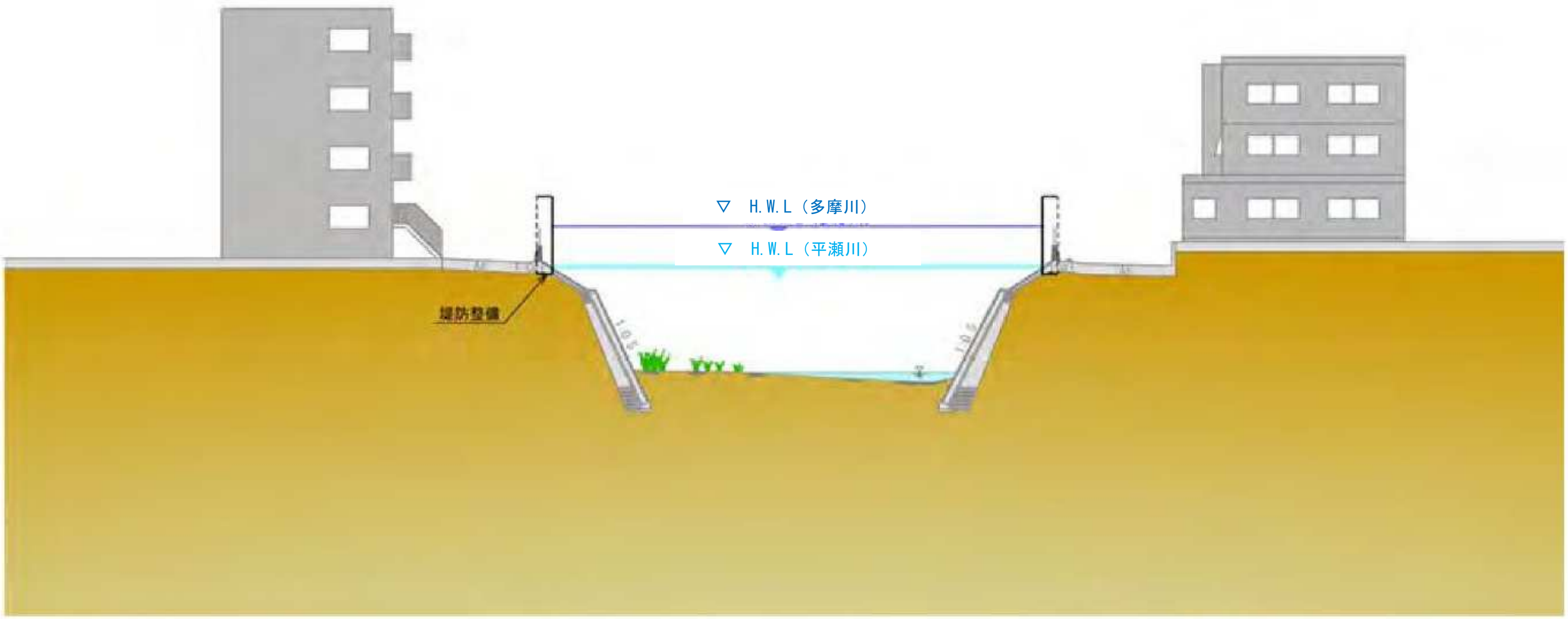
対策時期	対策内容	対策実施者	令和4年度	令和5年度 上半期	令和5年度 下半期	令和6年度	令和7年度以降
中長期対策	①平瀬川水門ポンプゲート設置工事	川崎市		工事中			
	②久地樋管自動制御化工事	川崎市		工事中			
	③かすみ堤上流ポンプ設置工事	川崎市		設計中	契約予定	工事予定	
	④平瀬川・多摩川合流部堤防整備工事（1期）	川崎市		設計中		契約予定	工事予定（約10年）
	⑤多摩右岸の堤防築造工事	国		設計中			工事予定



②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(1)

多摩川水系平瀬川ブロック河川整備計画（令和4年2月神奈川県策定）

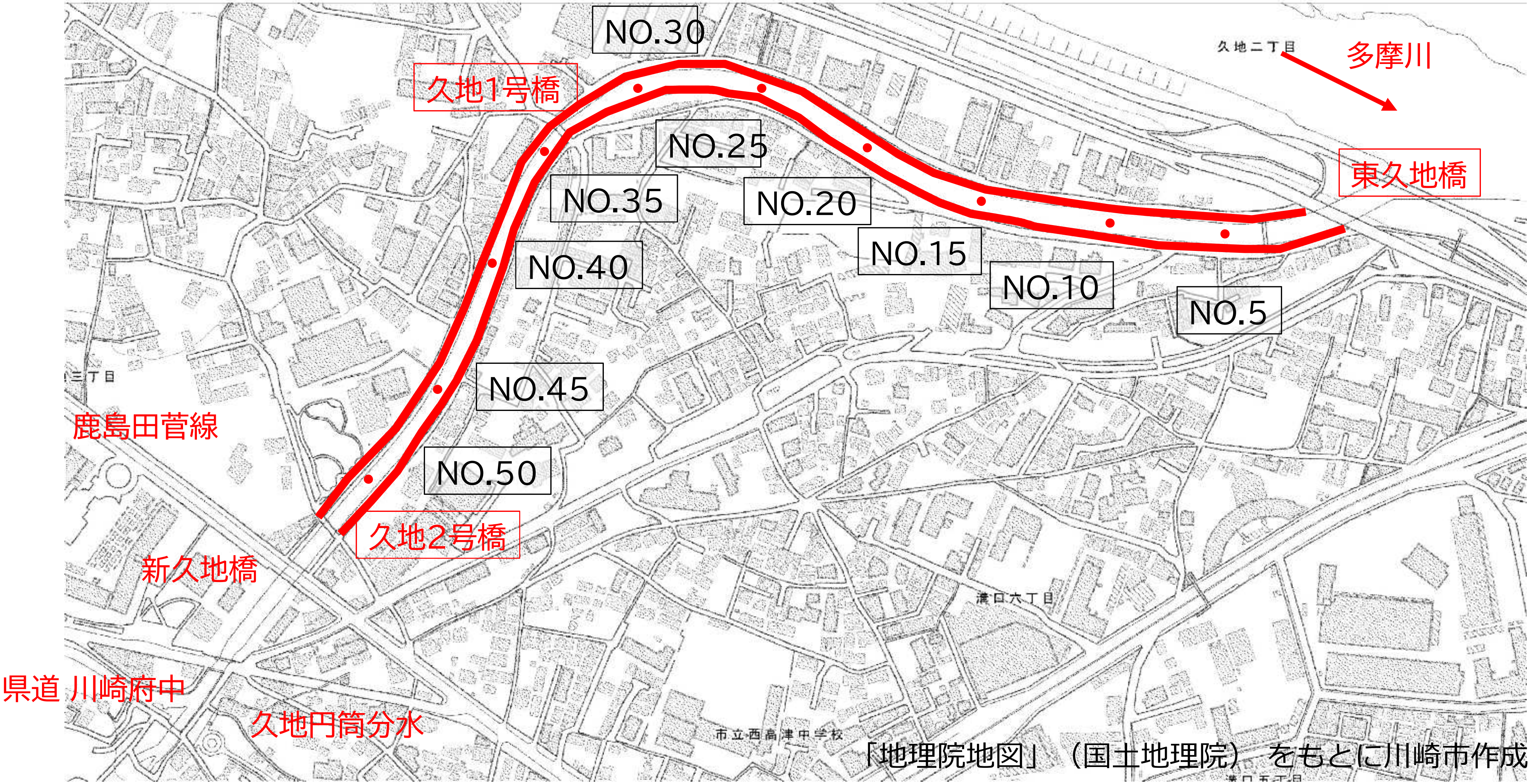
【合流部対策】
　早期に治水安全度の向上を図るため、多摩川本川水位を考慮した堤防整備を実施する。堤防は、外力に対して安全性を有した構造とする



河川整備のイメージ（平瀬川）

②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(1)

整備区間



「地理院地図」(国土地理院)をもとに川崎市作成

②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(1)

「多摩川水系平瀬川ブロック河川整備計画(素案)」における
オープンハウス型説明会・パブリックコメントで頂いた主なご意見

○堤防整備に当たっては、透明窓など景観面に配慮して欲しい

○堤防に圧迫感、威圧感を感じる

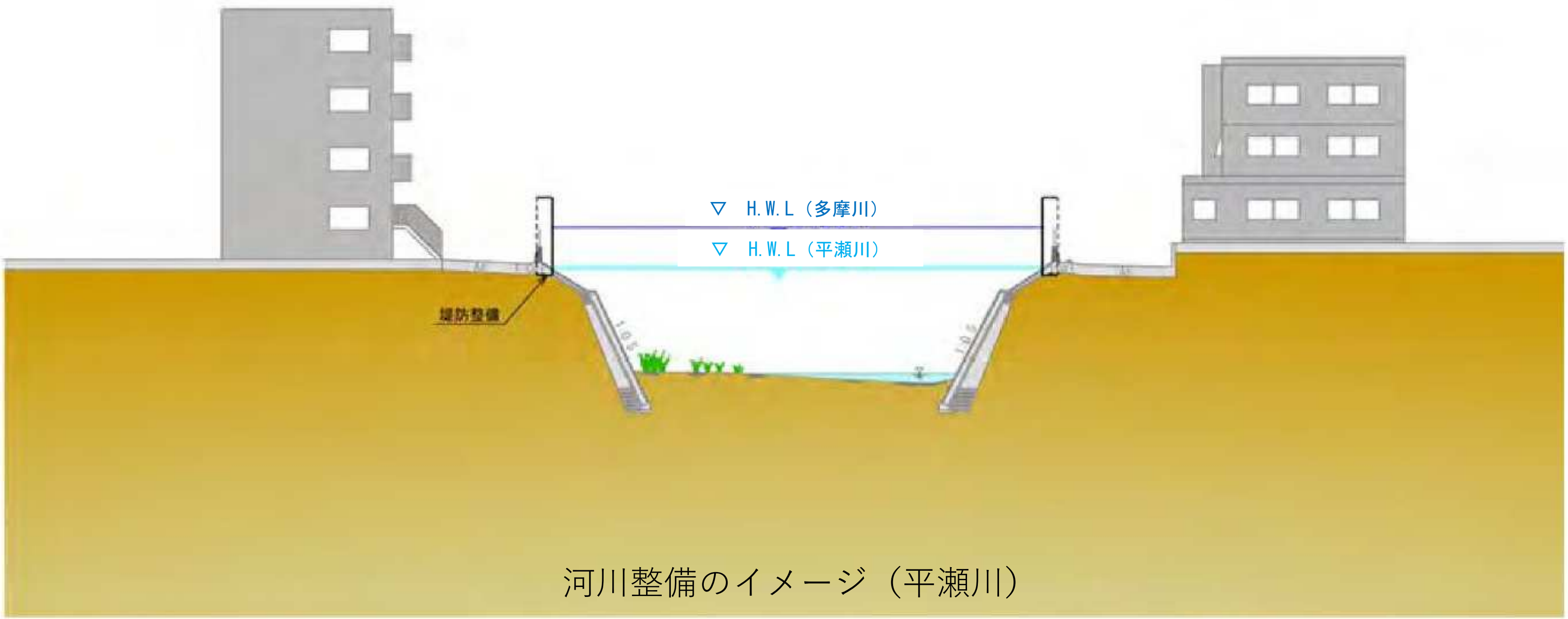
○管理用通路は、日常生活のため必要であり、狭くしないで欲しい

○河川の水位等が目視できないのは不安を感じる

②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(1)

堤防の構造等に関する検討(堤防高さについて)

多摩川水系平瀬川ブロック河川整備計画（令和4年2月神奈川県策定）



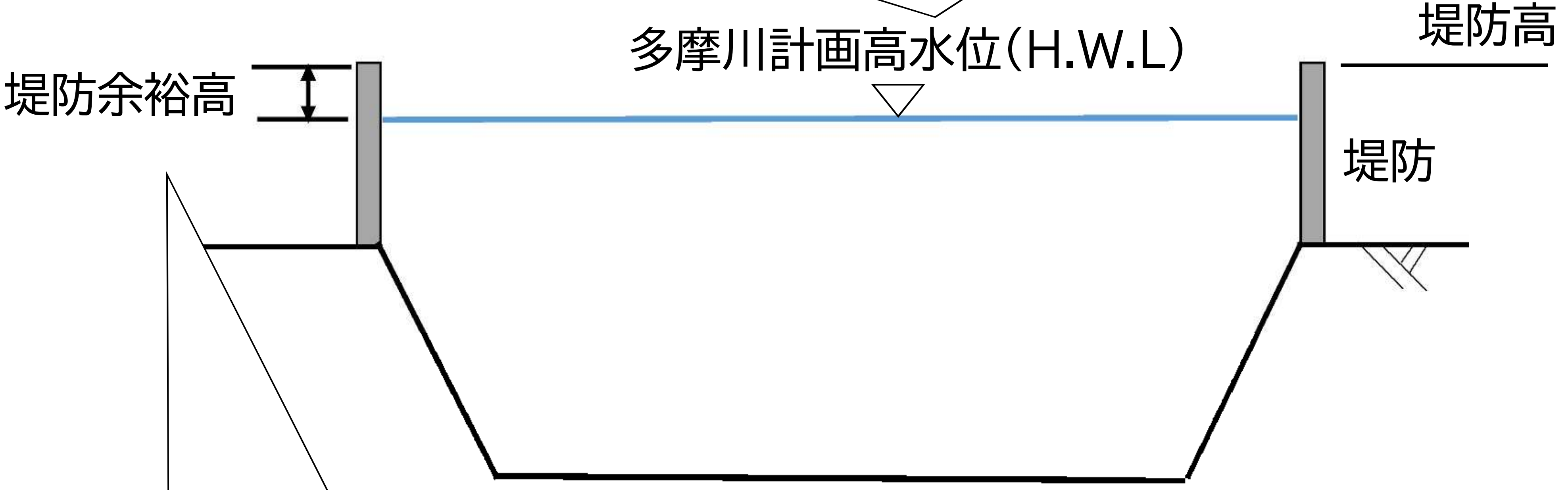
河川整備のイメージ（平瀬川）

⇒堤防は盛土による築造が基本であるが、土地利用の状況を考慮し、堤防の嵩上げにより整備する
⇒多摩川の背水の影響を考慮するため多摩川の計画堤防と同じ高さで平瀬川の堤防(バック堤)を整備する

②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(1)

用語の説明

計画高水位は堤防や護岸などの設計の基本となる水位
堤防が耐えられる最高の水位



計画高水位に達した水が波うったり、
流木などがあっても安全なように
堤防の高さに持たせた余裕

②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(1)

堤防の構造等に関する検討

景観や圧迫感等の住民要望を受け堤防構造を検討

○堤防全体の構造について

河川管理施設等構造令　第18条（構造の原則）

堤防は、護岸、水制その他これらに類する施設と一体として、計画高水位(高潮区間にあっては、計画高潮位)以下の水位の流水の通常の作用に対して安全な構造とするものとする。

河川管理施設等構造令　第19条（材質及び構造）

堤防は、盛土により築造するものとする。ただし、高規格堤防以外の堤防にあっては、土地利用の状況その他の特別の事情によりやむを得ないと認められる場合においては、その全部若しくは主要な部分がコンクリート、鋼矢板若しくはこれに準ずるものによる構造のものとし、又はコンクリート構造若しくはこれに準ずる構造の胸壁を有するものとすることができる。

⇒多摩川の計画高水位までは、耐洗掘性・耐浸透性に優れたコンクリートで整備する

②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(1)

堤防の構造等に関する検討

景観や圧迫感等の住民要望を受け堤防構造を検討

○堤防余裕高部分の堤防構造について

透過性素材(アクリル)の採用事例

一級河川三沢川（神奈川県）

二級河川帷子川（神奈川県）

一級河川新河岸川（東京都）

堤防余裕高へのアクリル板の採用に関する安全性の検証

・他都市の事例を参考にメーカー独自の検証結果を確認済
・工事施工前に実物大モデルテストを実施し施工

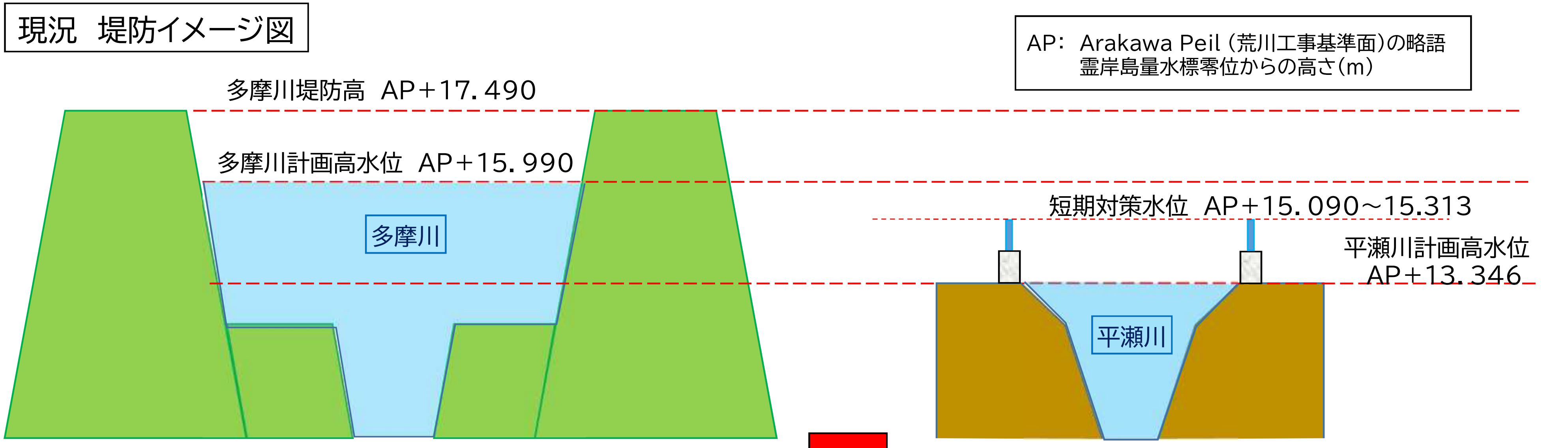
⇒安全性を第一に、地元からの要望である景観や日照、防犯面等に配慮し、多摩川の計画高水位より上の余裕高(波等を受ける部分)のみ透過性素材であるアクリルを採用する

②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方（2）

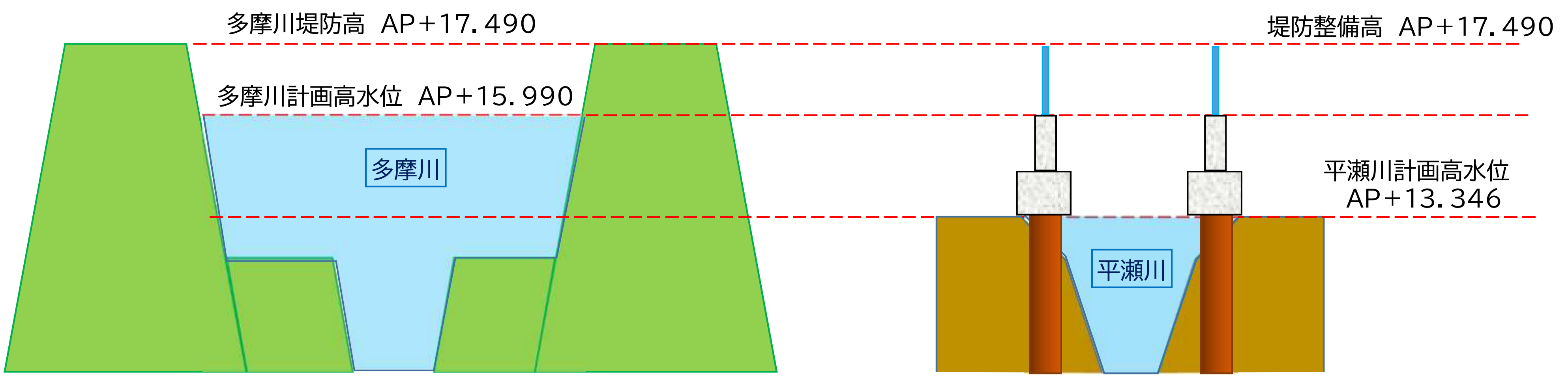
②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

2. 堤防整備について

現況　堤防イメージ図

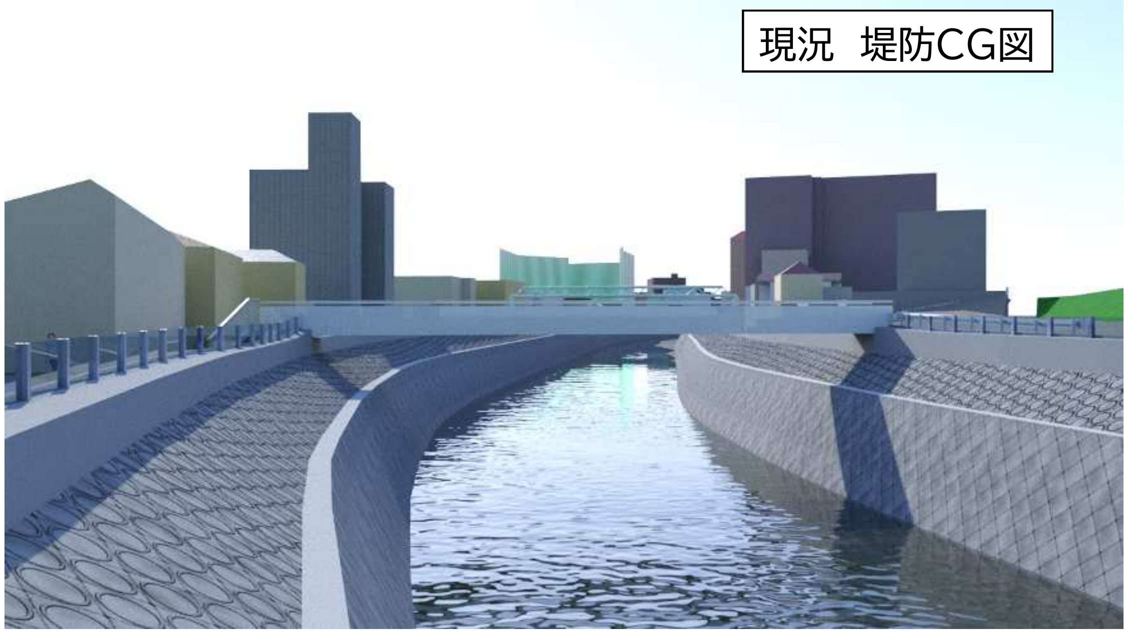


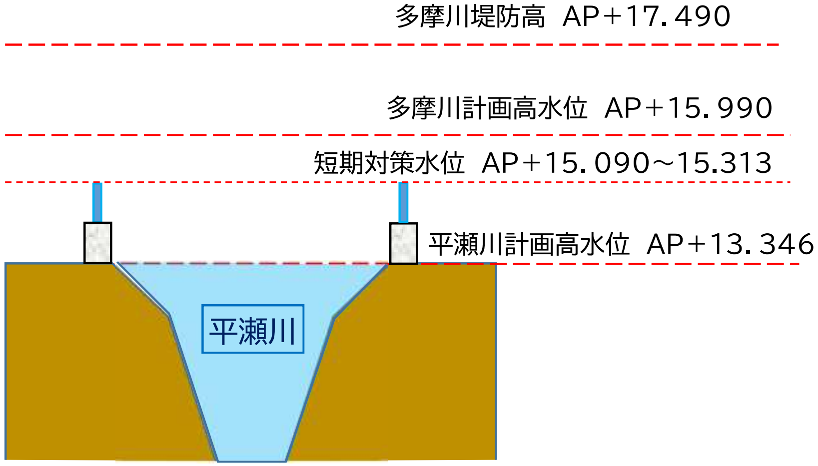
計画　堤防イメージ図

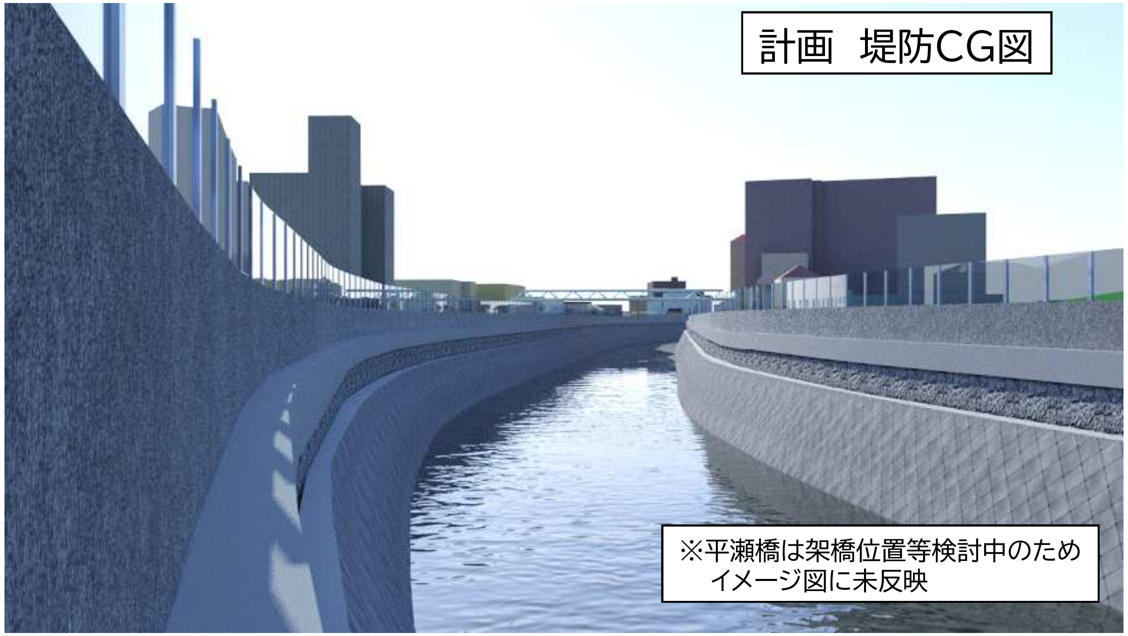


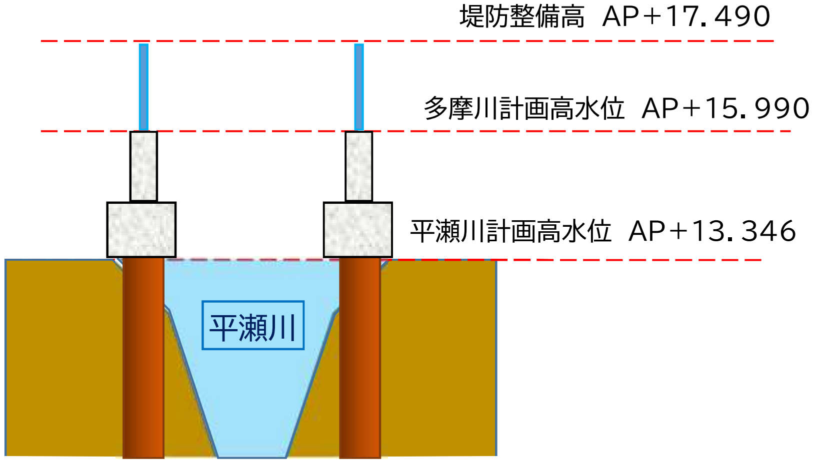
②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

2. 堤防整備について



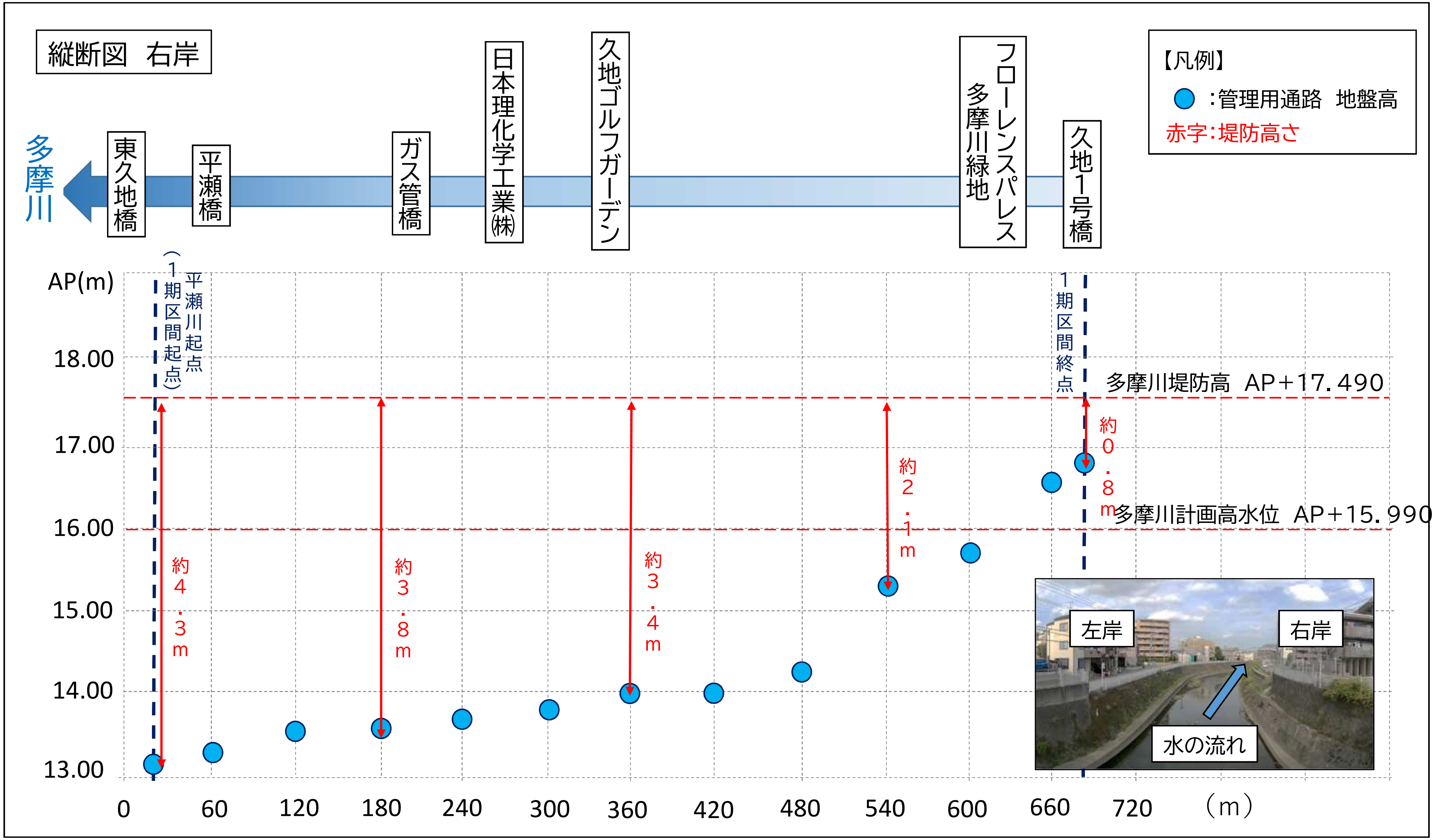






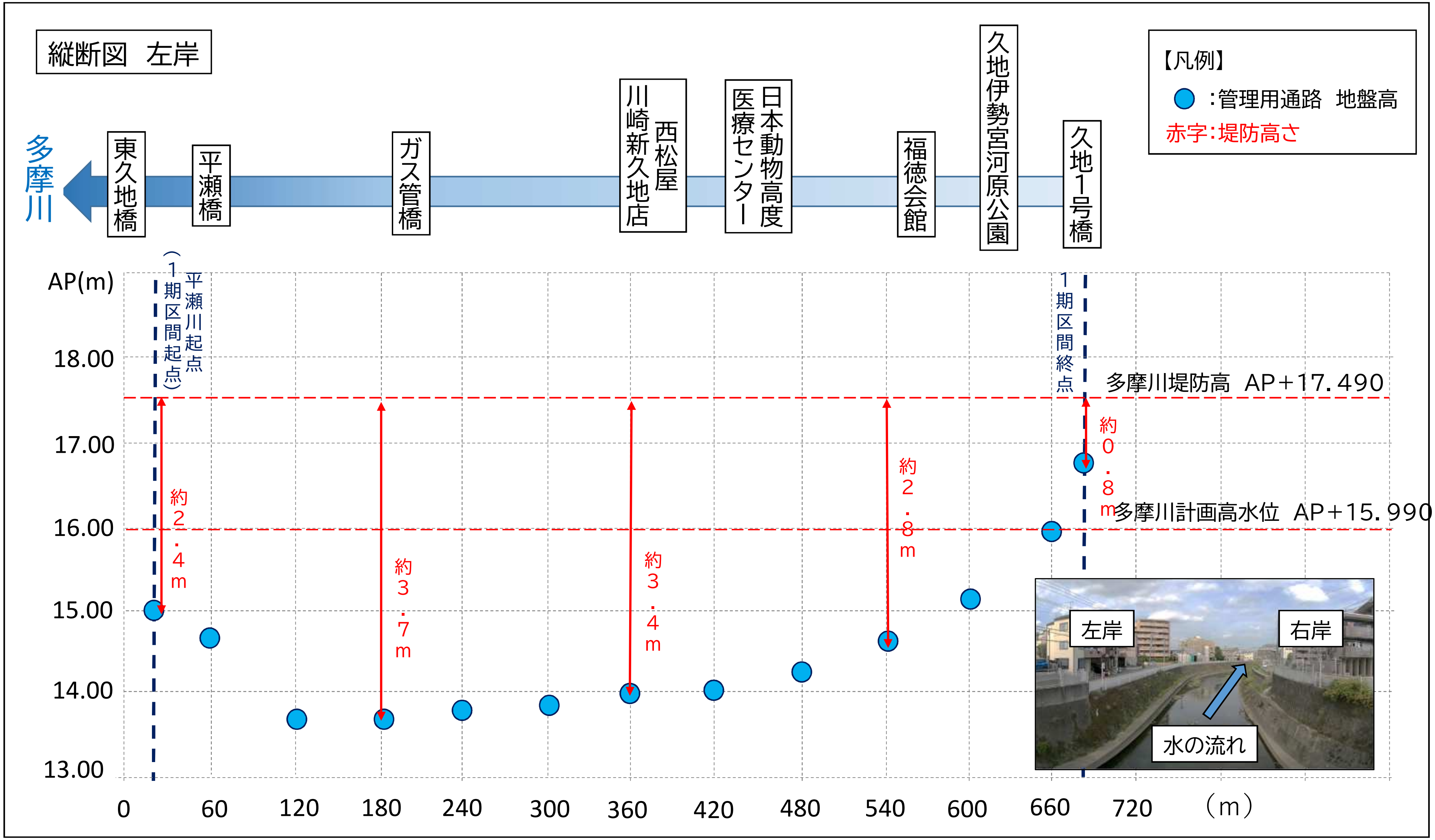
②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

2. 堤防整備について



②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

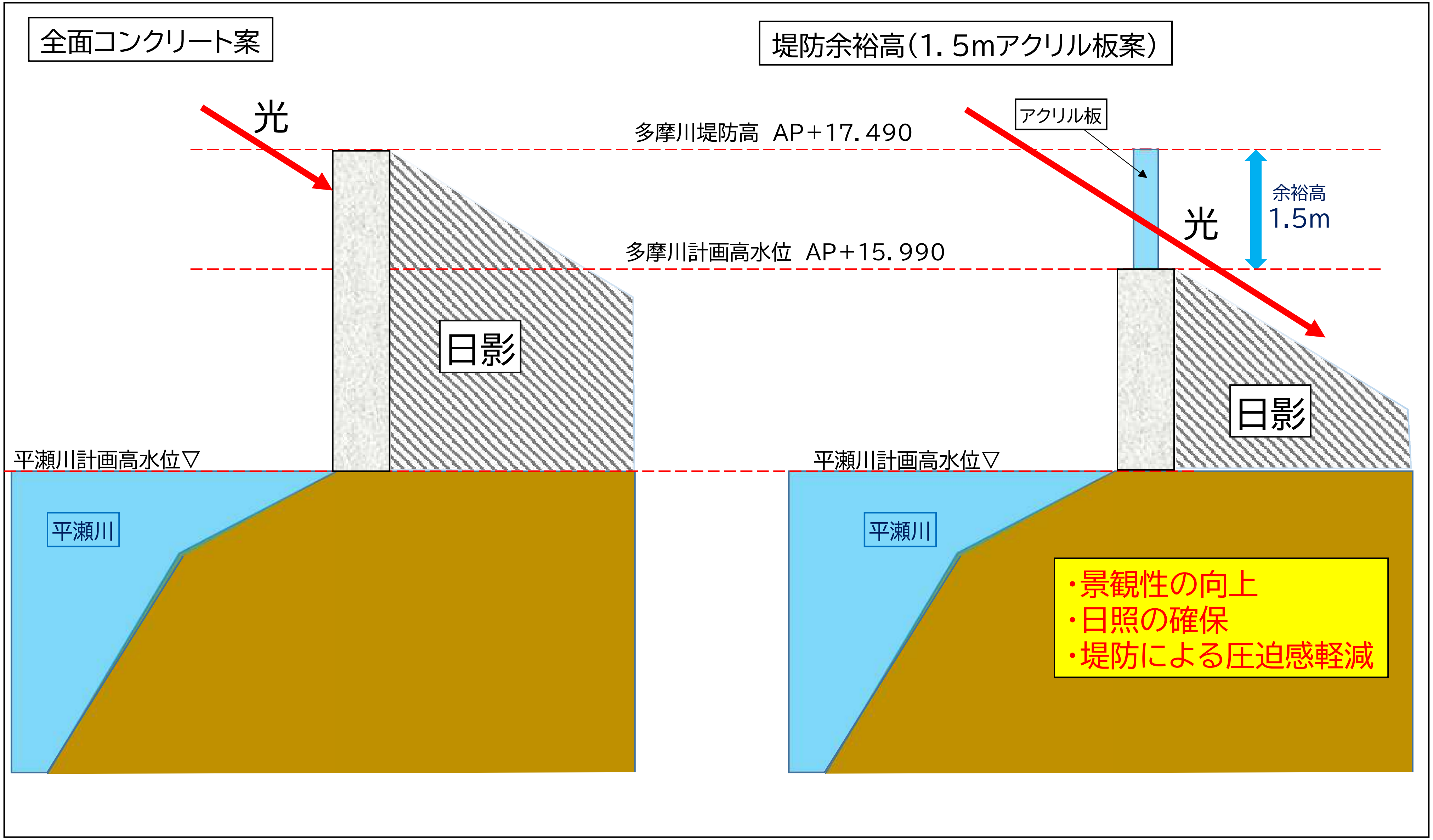
2. 堤防整備について



②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

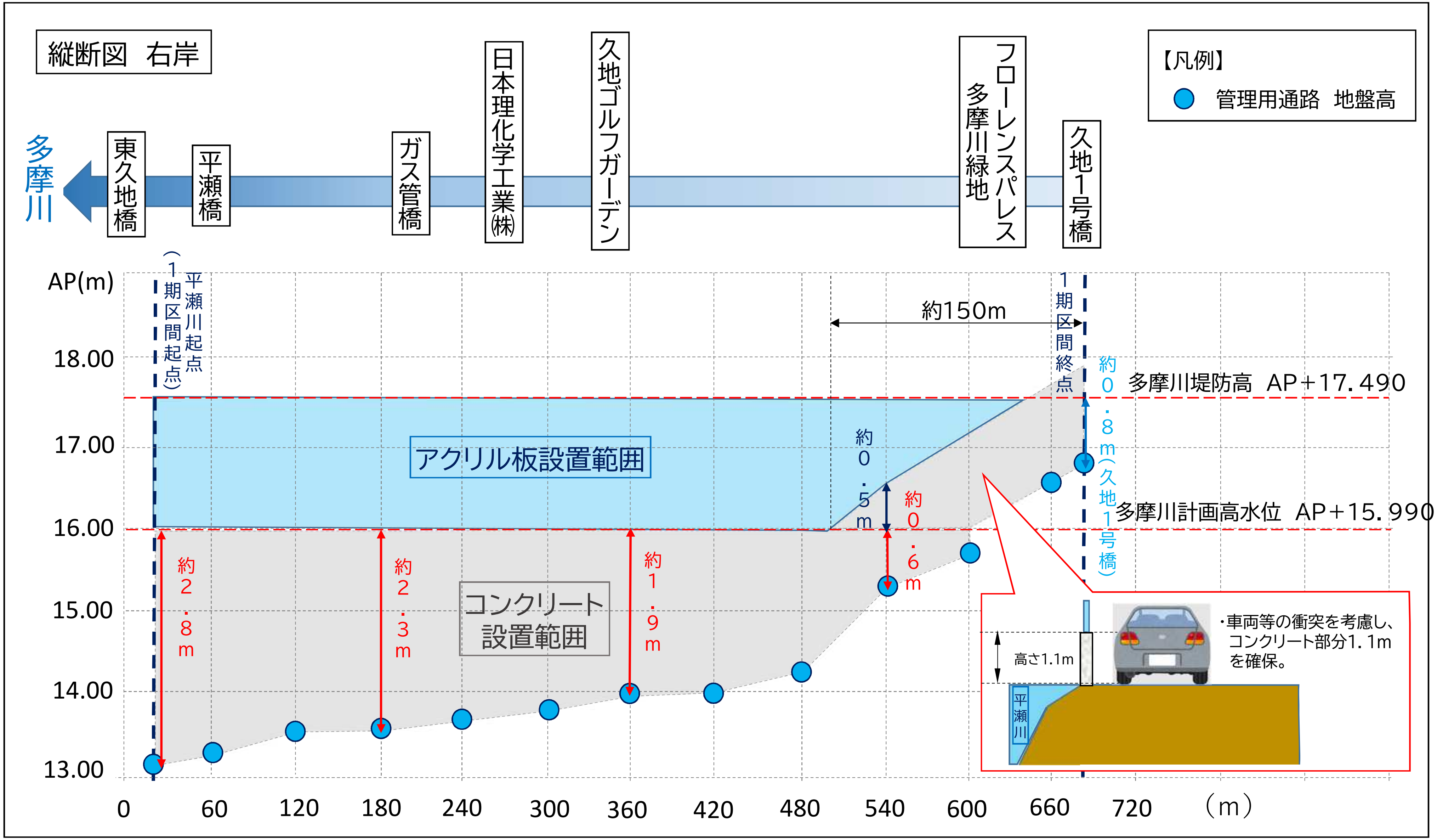
3. 堤防構造について①

堤防イメージ図



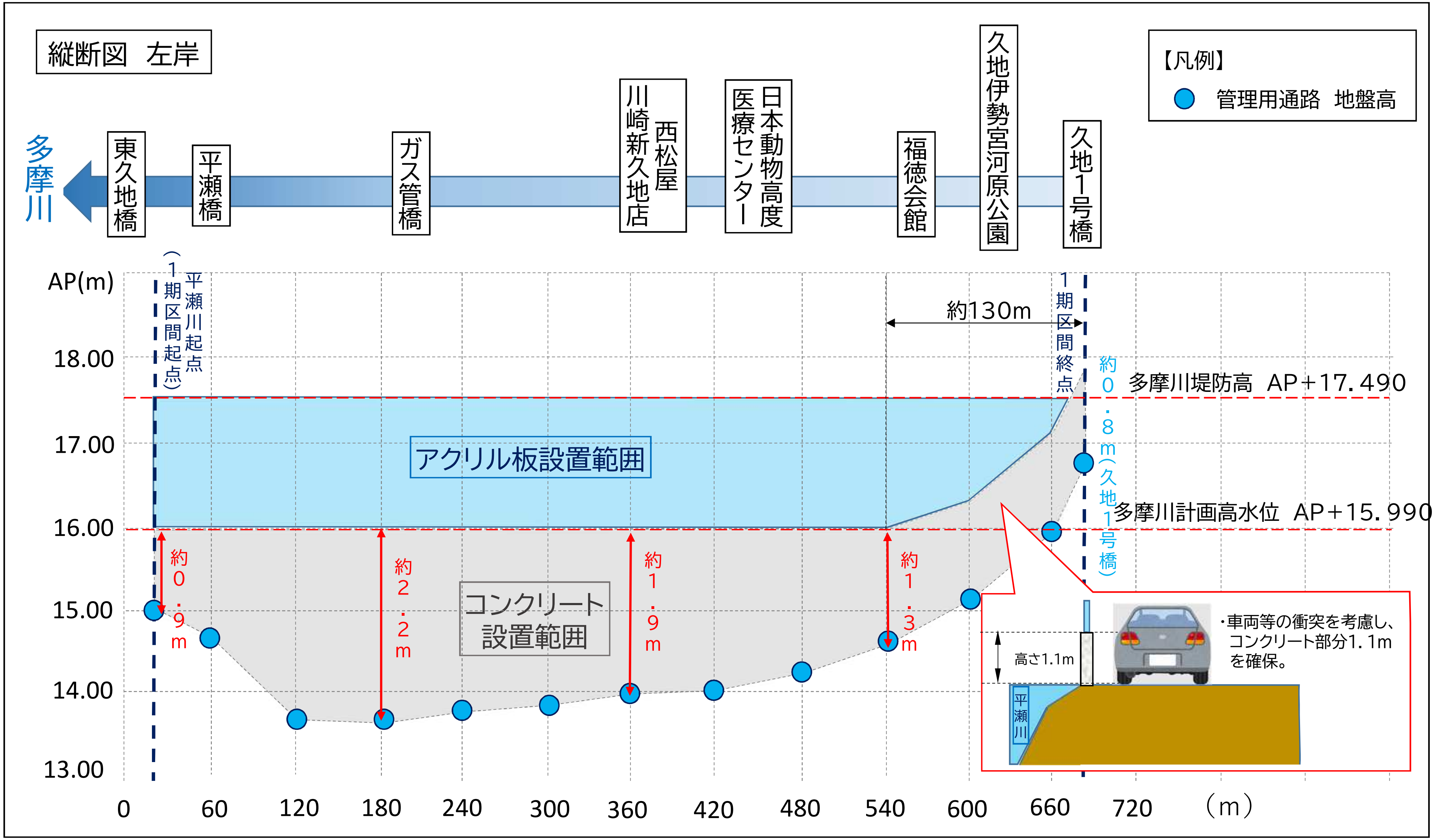
②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

3. 堤防構造について①



②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

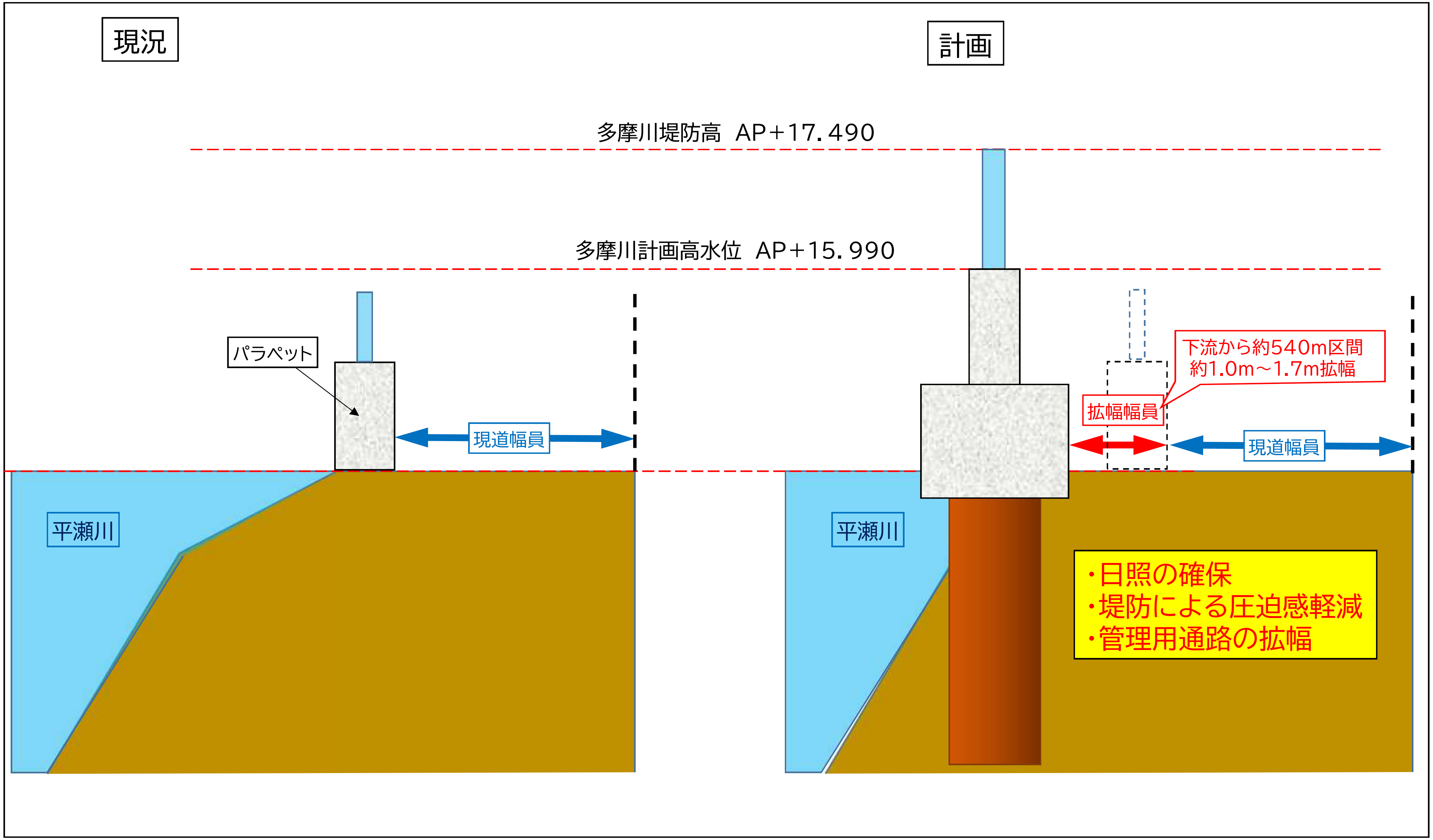
3. 堤防構造について①



②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方（2）

3. 堤防構造について②

堤防イメージ図

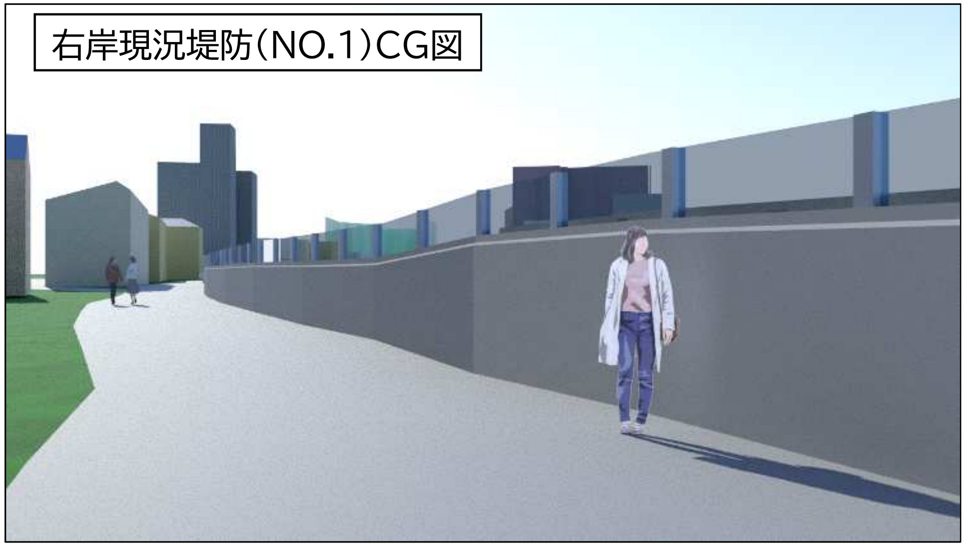


②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方（2）

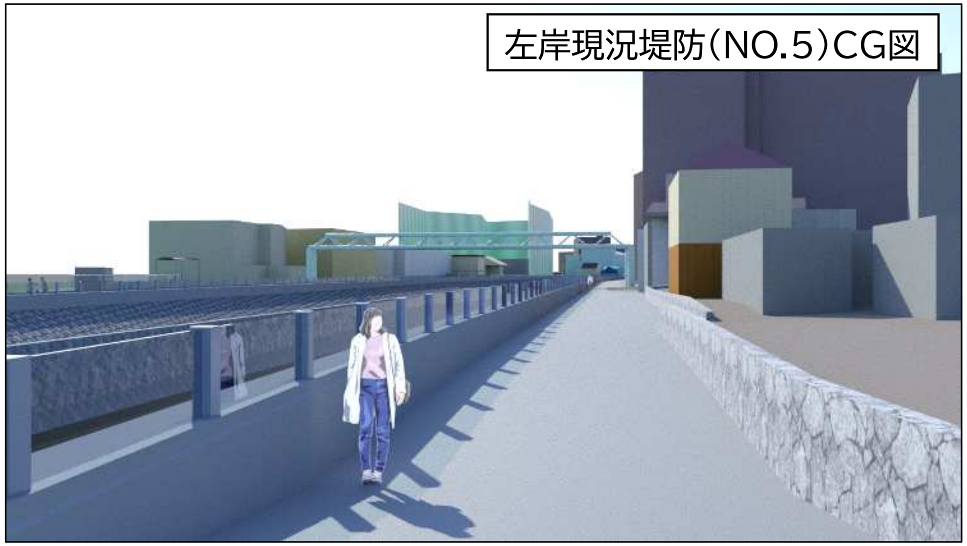
3. 堤防構造について②

堤防CG図（秋分の日：午後3時）

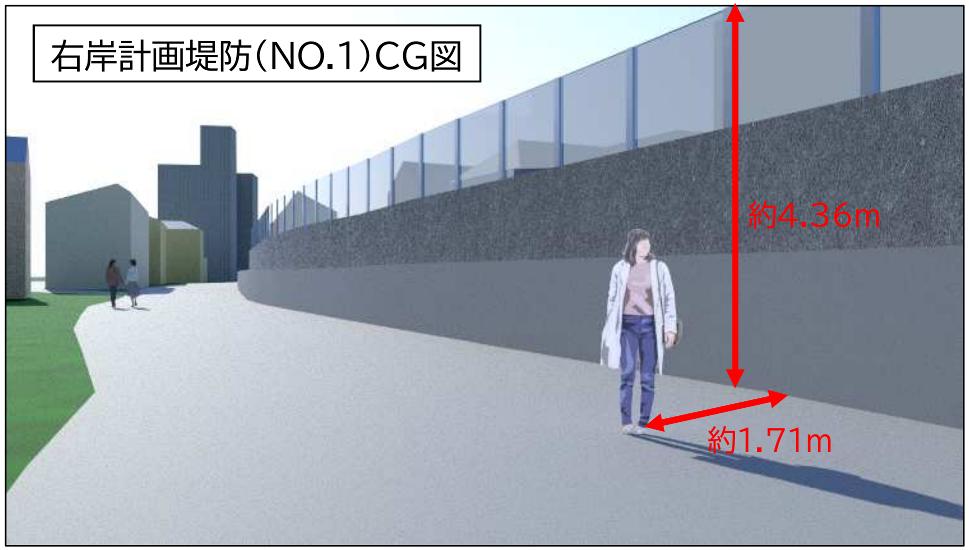
右岸現況堤防（NO.1）CG図



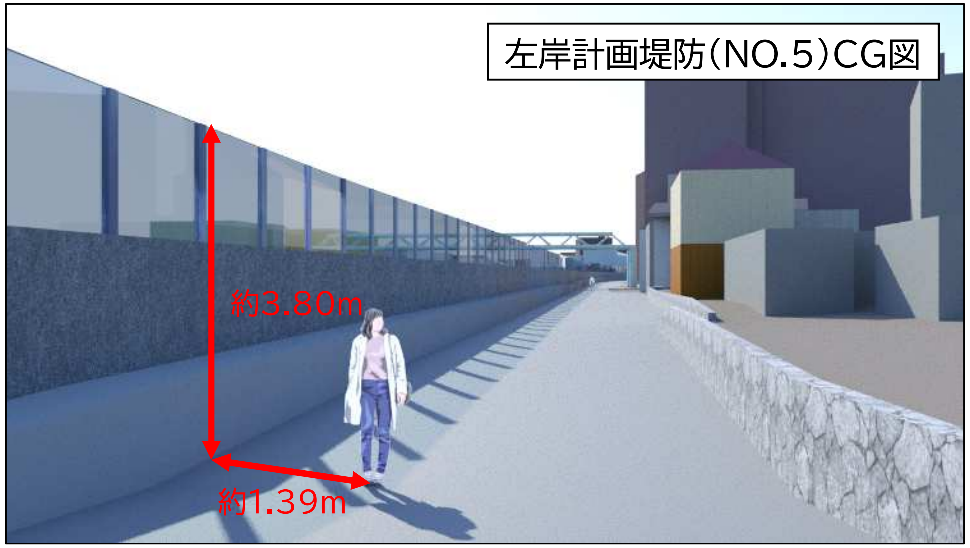
左岸現況堤防（NO.5）CG図



右岸計画堤防（NO.1）CG図



左岸計画堤防（NO.5）CG図

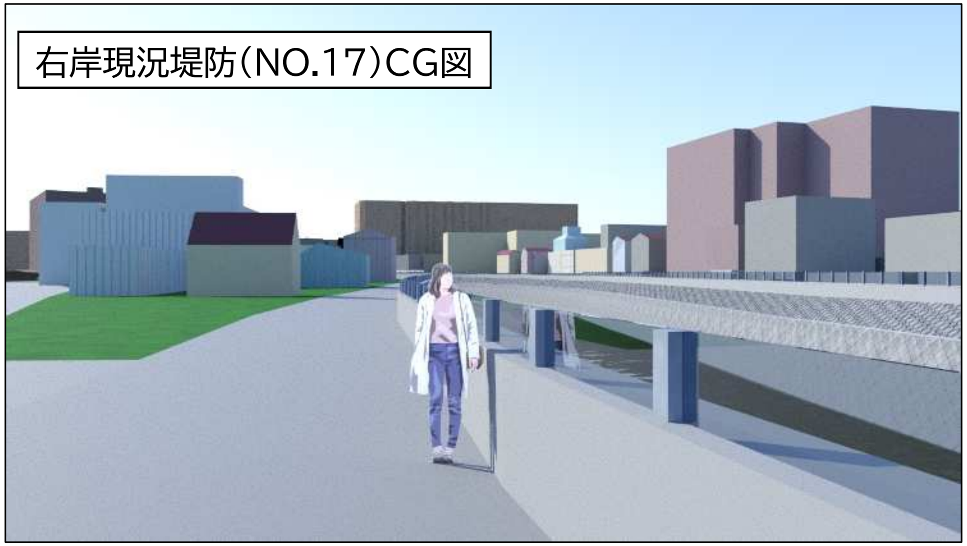


②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

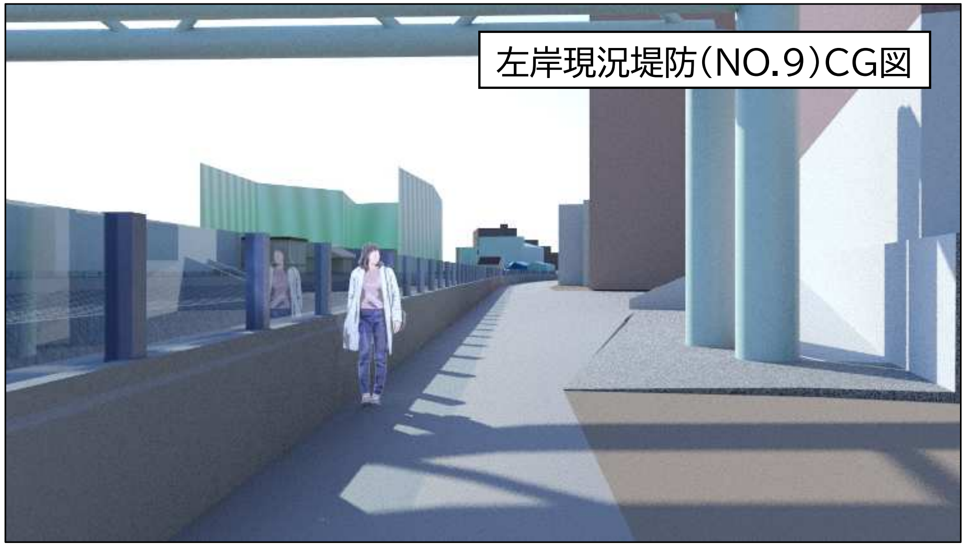
3. 堤防構造について②

堤防CG図(秋分の日:午後3時)

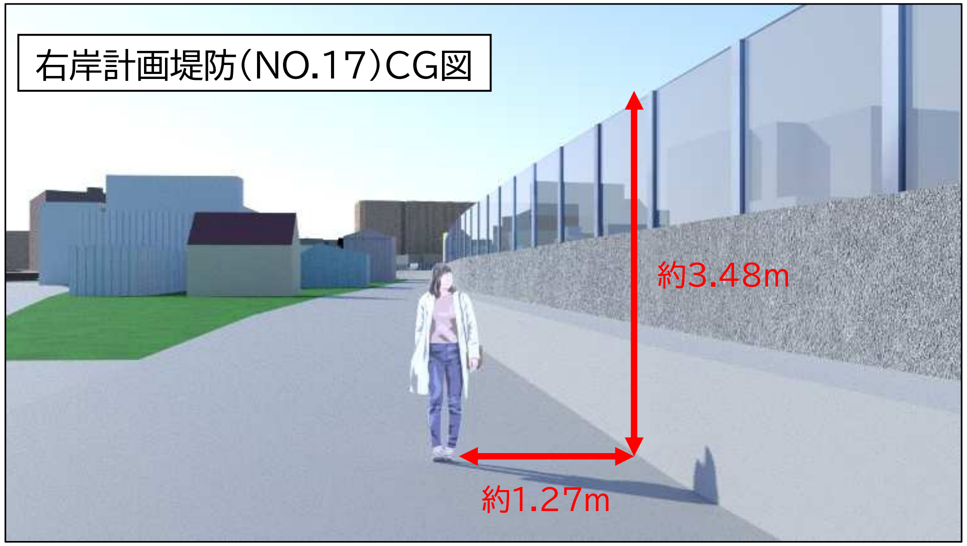
右岸現況堤防(NO.17)CG図



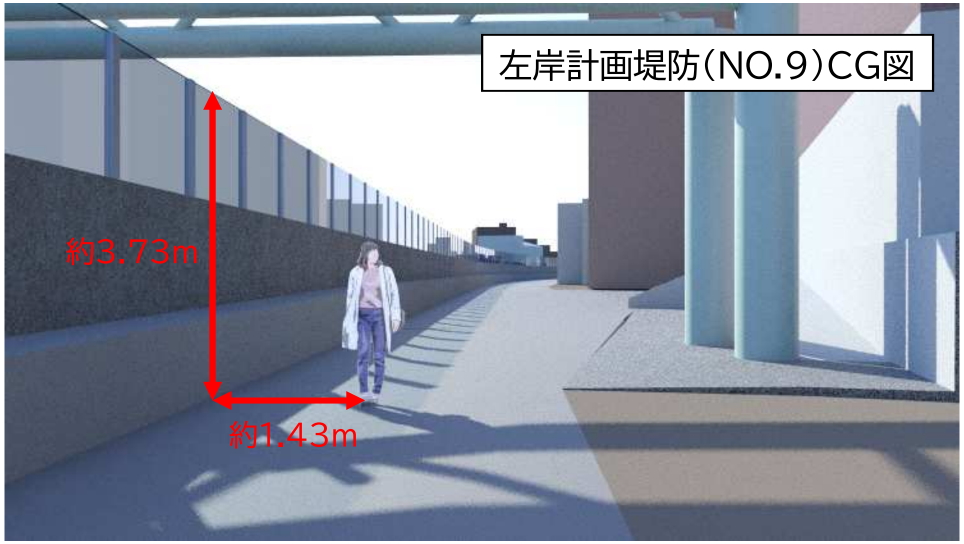
左岸現況堤防(NO.9)CG図



右岸計画堤防(NO.17)CG図



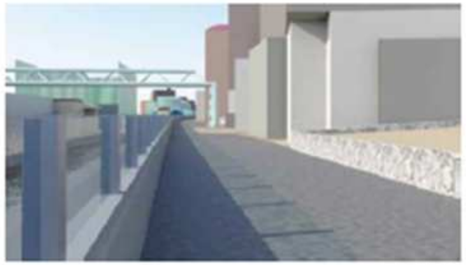
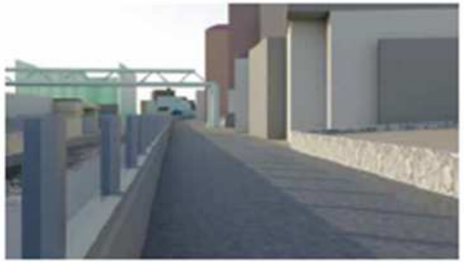
左岸計画堤防(NO.9)CG図



②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方（2）

3. 堤防構造について②

堤防CG図（冬至の日の影の様子）

	現況	堤防余裕高 （1. 5mアクリル板案）	全面コンクリート案
12/23 AM 8:00			
12/23 PM 12:00			
12/23 PM 3:00			

②.平瀬川合流部の堤防整備の考え方(2)

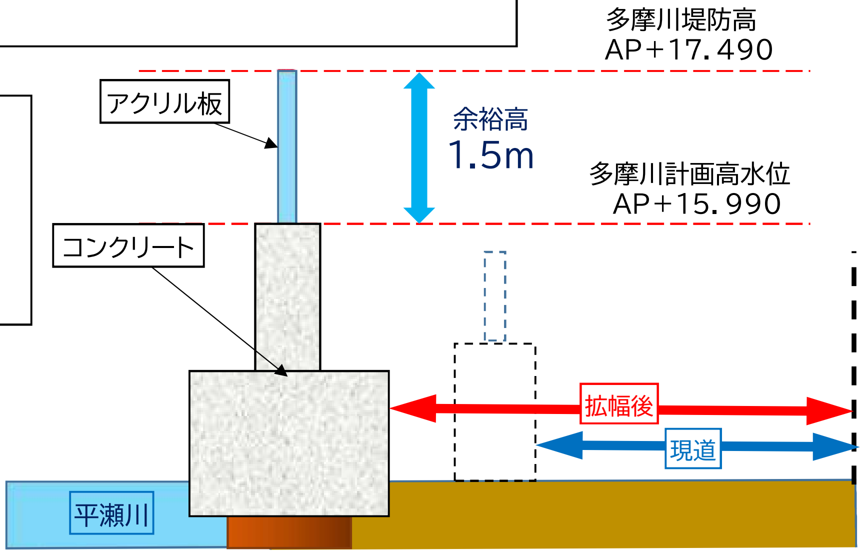
4. まとめ

○ 多摩川の背水の影響を考慮するため多摩川の計画堤防と同じ高さで平瀬川の堤防(バック提)を整備する

○ 堤防は水位が上がると想定される高さ(多摩川の計画高水位)まではコンクリートで整備する

○ 多摩川の計画高水位より上の堤防余裕高(波等を受ける部分)のみ透過性素材であるアクリルを採用することにより、景観性の向上、日照の確保等が出来る

○ 堤防位置を川側に前出しすることにより河川管理用通路を拡幅され、堤防による圧迫感を軽減することが出来る



令和4年8月18日 説明会資料

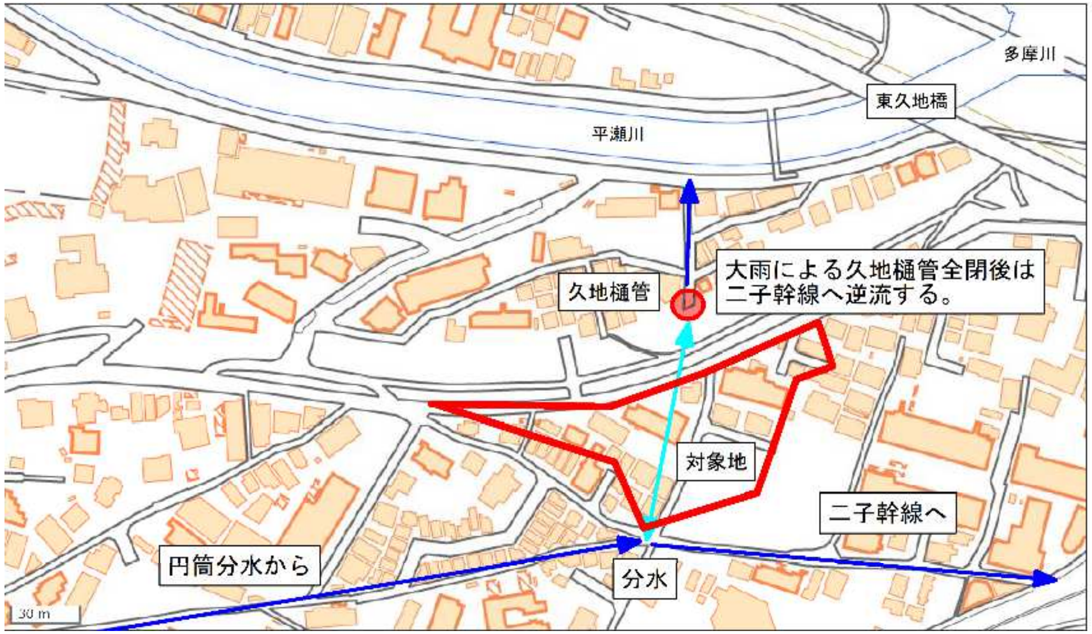
久地樋管の全閉化について

（要望）
下水道計画では対象地域の雨水排水は久地樋管を経由して平瀬川に排水する計画になっているが、久地樋管を全閉し、常時二子幹線に流すことは出来ないか。

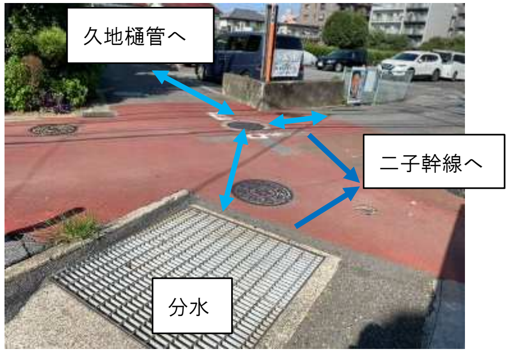
（現状と課題）
- 平瀬川水門に排水すべき流域の一部の雨水が、常時、二子幹線へ流出することから、下水道計画の見直しを含めた調整が必要である。
- 久地樋管と分水までの管路に、常時、雨水や用水が滞留するため、その排水方法を検討する必要がある。
- 平時、円筒分水から久地堀への取水を含めた文化財である円筒分水の在り方を検討し、関係者と協議・調整が必要である。

（結論）
多くの課題を検討し関係者との協議・調整が必要であることから、常時、久地樋管の全閉はできないものと考えている。

（整備の方向性）
令和元年東日本台風での浸水地域の治水安全度の向上を早期に実現させる必要性から久地樋管の自動化を行い、大雨時の運用を円滑にする。



排水模式図



現状

※　上図は排水系統の模式図で示したものであり、実際とは多少異なるものである。

④. その他(久地樋管の全閉化)

○ 全閉化(常時全閉)に向けた課題

・久地堀の農業用水としての取水に係る関係者調整
・晴天時の久地樋管へ流入する農業用水の処理
・雨天時の久地樋管へ流入する雨水の処理

「地理院地図」(国土地理院)をもとに川崎市作成

○ 全閉化に向けた今後の取組

① 農業用水を処理するため、平瀬川に排水する経路を新設
② 雨水を処理するため、二子幹線へ排水する影響・手法を検討
③ ①②の結果を踏まえ、全閉化が可能な場合、必要な措置を講じる